

会議録

会議名 (審議会等名)	第10回相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所地域政策課 電話042-749-2135 (直通)		
開催日時	平成23年6月20日(月) 10時00分～12時10分		
開催場所	南区合同庁舎3階講堂		
出席者	委員	23人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	8人(南区長、南区役所地域政策課長、他6人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	10人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会議の公開について 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 副会長の選出について (2) 南区の現状と課題のまとめと目指す姿について (3) (仮称)南区区民ミーティングで討論するテーマについて (4) その他 4 閉会 		

審議経過

主な内容は、次のとおり。(◎は会長の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

野村区長、松下会長のあいさつの後、委員の推薦団体の変更、新任委員の紹介に続き、松下会長の司会進行により、議事が進められた。

2 会議の公開について

松下会長から会議の傍聴の可否が諮られ、許可を得た。

—傍聴者10名入場—

3 議題

(1) 副会長の選出について

◎議題3、(1)副会長の選出については、委員の互選により定められている。委員の皆さんの推薦あるいはご意見を踏まえて、決めたいがどうか。

○市自治会連合会副会長の金子委員は、東林地区まちづくり会議の会長、南区の地区連の座長であり、本会議の副会長にふさわしいので推薦したい。

金子委員の推薦があり、委員に諮ったところ、異議がなく、副会長に決定した。

(2) 南区の現状と課題のまとめと目指す姿について

◎前回の続きだが、『「V 道路・交通・都市基盤、土地利用」の現状・課題と目指す姿(2)』について、この「目指すべき姿」が妥当かどうか、不足がないか議論いただきたい。

●資料1『「IV 道路・交通・都市基盤・土地利用」の現状・課題と目指す姿(2)』について説明 ③交通環境 ④公共交通

◎資料を見ると、これまでの検討項目では全体的に肯定的な項目が多かったが、交通問題ではネガティブな項目が多い。南区の一番の課題がこの交通問題で、区内での移動が大変であるなど、さまざまな課題があり、高齢化が進展する中で、非常に現実的な課題になっていく。大事な議論なので、方向性の議論と同時に、議論の方法も含めて意見交換をお願いしたい。

○南区で一番の課題となるのが、相模大野駅から原当麻に予定されるBRT(新交通システム)であり、現状を知りたい。南区区ビジョン策定にあたり、現時点での位置づけを確認したい。また、渋滞の緩和の手法として、道路をつくるという発想だけでなく、自転車が通りやすい道づくりも必要である。健康にも良い自転車を南区でも重要視したいと考えている。

◎BRTの問題について、経緯を含めて、現状の説明を願う。

●BRTは、一昨年、御園付近に幅員30mの道路を作り、相模大野から原当麻方面へ新しい交通システムを導入する計画のパブリックコメントを実施した際、地域への説明が不十分で、多くのご意見等が寄せられた経過がある。共通認識として、県道52号の渋滞緩和、解消が必要だという点は一致している。今後、BRTについて、必要な取り組みなど市民と情報の共有化を図りながら、一度仕切り直して検討を進めている状況である。

○当初BRTの構想では、原当麻・相模大野間の路線案が示されたが、地域の反対があり、古淵ルートが議会で質問された経緯もある。地域では7～8年前から陳情し、県道52号の渋滞解消のひとつの方法としてBRTとなった経過がある。交通需要にあわせ、北里大学までは本数、輸送量の多いバスにし、北里以西の路線はコミュニティバス方式で、本数増などの効率的な方法も検討する必要がある。また、県道52号線の拡幅は、懸案事項で、早急に進めて欲しいと要請している。

○BRTの問題について、大野南地区自治会連合会では、計画全般に反対ではないが、2月に説明があり、4月に都市計画決定という唐突な話であったこと、御園の住宅地区に地域を分断する幅員30mの道路を通すことの2点について異議申し立てをした。こうした経過を踏まえ、大野南地区まちづくり会議に、BRTにこだわらず、交通問題に対する自由な討議の場として交通部会を設置し、既に4・5回開催している。県道52号線の渋滞緩和について、共通理解が図られているが、BRTについては、今のところ白紙の状態で話し合いに臨んでいる。今後、大野南地区の市民同士で話し合いを深めたいと考えており、大野南地区として一つの意見をまとめあげたいと考えている。BRTもこれまでの方法か、別なものを考えるのか意見をまとめていきたいと考えている状況にある。

○整備にあたっては、遊歩道のようなものをつくること提案したい。

◎現状の課題について、メリット・デメリットを比較しながら、知恵を出し、解決に向けて進むのが、南区の区民の姿と思うが、議論の進め方の枠組みが分かりづらいので説明を願う。

●今後新しい交通システムを検討する進め方として、例えば、担当部署がまちづくり会議の交通部会で説明するなど、地域の意見を聴取している状況と承知している。今後、どのような構成、枠組みで進めるかは、詳細に承知をしていない。

○相模大野の周辺は道路も整備済みで、原当麻は用地もあるとは思いますが、既設の道路に、道路の幅、時間帯などによるバスの選択など運行のシステムでの対応も考えるべきだ。

○事務局の説明で、現在市民の意見を聞いているとのことだが、きちっとタイムスケジュールを出してもらわないと納得できない。

◎該当地区だけでなく、南区区民全体として考えると、例えば、渋滞で困っている地区があり、そこに思いをはせると、様々な知恵や考え方が出てくる。課題に対し、最終的に住民投票で

決することがあってはならないと考える。だから、知恵を出し合い全体の問題として考えていく仕組みが大切で、これを進めていくことは難しいことだが、行政として実践していく意図、意気込みが問われている。

○市は、一度BRTを提案したが、大きな反対が出たため、引っ込めた印象を持つ。2025年には、リニア新幹線の駅が橋本近辺に出来るという話も聞くし、松沢前知事からは、相模原市にリニア中間駅が出来れば、倉見に新幹線新駅の建設の構想も前進し、同時に相模線の複線化も実現させたいという話があった。それには余り時間的な余裕がない。南区、あるいは市全体という大局的な視点で考え、相模線と小田急沿線の幹線をつなぐ新たな交通システムも提案し、議論して前に進めるとともに、BRTももう一度議論してもらいたい。

○BRTについては、一定の経済効果、需要見込みのもと提案されているはずだが、予定区間の居住者立ち退きの問題がある。地域住民にとっての利便性と病院関係など地域外の利用者の利便性の両面があり、その検証を重要視してもらいたい。県道52号線の渋滞解消については、大野南地区まちづくり会議の交通部会で議論されているということだが、南区区民会議でも共通認識を持ちたいので、議論の進捗を伺いたい。

●交通部会は、大野南地区まちづくり会議の作業部会的な位置づけで昨年設置され、現在県道52号の渋滞、狭隘道路及び自転車問題など大野南地区の交通課題全般の課題抽出を行っている。今後はこのような課題の中から、優先して解決すべきものを議論していこうと考えている。

◎大野南地区で熱心な議論を進めているが全体像が見えにくい。目標時期、位置づけがわからない。問題の解決を目指すならビジョンを持ち、全体像を理解しながら進めるべきである。いずれにせよ、大野南地区には大きなメリットがないので、様々な意見も出るが、全体から見た議論をきちんとして、○か×かの議論ではなく、接点を探るべきだ。

○相模大野を中心として議論されているが、例えば、北里や女子美術大学へ行くのに相武台からもバスが出ている。相模大野1か所に集中するだけでなく、分散する必要もあるのではないか。また幅員30m道路の件では、幅員の話が先行しており、みんなに活用される道路や現状に合った道路幅など、別の視点での道路づくりというのも必要ではないか。

また、バスについては、例えば相武台では、時代が変わり、住民も変わっているのにバス路線は昔のままなので、少し見直す必要があると考えている。

○バスの利便性やあり方は、これから5年後、10年後を見据えながら、次をどうするかを考えている。渋滞の原因は自転車、大きなトラックやバスなどのため、渋滞現象を面として捉える必要がある。相模大野の再開発事業の終了後の状況、北里大学の学生が利用する自転車3,000台をどうコントロールするかなど様々な要因を考慮し、可能なことからやろうと考えている。例えば、病院など大きな施設の建替工事の際に、バスロータリーの整備をお願い

いするなどしている。BRTの話だが、建設コストが高く、需要の見込みを精査すべきで、相模大野や古淵から北里病院までは多いと思うが、その先は原当麻方面に行けば便利だが、ともすれば宝の持ちぐされになりかねない。その点を踏まえたグランドデザインが必要である。

○北里大学では、無料のスクールバスが相模大野駅から北里大学まで朝・夕の通学時間帯に10分おきに出ることになり、自転車での通学は少なくなっていると聞いている。

○渋滞緩和のため、道路やバスでの対応の議論があるが、地上での対応は難しいと考える。例えば地下鉄など、別の選択肢を一つ増やすのもあると思う。

◎さまざまなアイデア、皆が考えるアイデアを出し合うところからスタートすべきだ。

○自分が住んでいる地区の現状はわかるが、やはり全体像が見えてこない。

●本来都市の整備と交通はセットで進めるべき話である。喫緊の課題として、さがみ縦貫道のインターチェンジの開設に伴い予想される交通量の増加への対応がある。また、北里大学病院は拠点病院としての存立性、女子美術大学でも、青山学院大学が厚木から相模原に移転したように、大学自体の存立性へも、交通問題は影響を与えているという指摘があり、この問題への対処を要請されている。この交通問題については、最優先して考えるべきことと認識している。区としても、都市建設局の業務ではあるが、最大の課題として考えており、相互調整を区の役割としているなか、都市建設局には昨年から相談、要請をしている。まずは、都市計画の考え方を早期に地域、または全市に公にするため、先日麻溝地区自治会連合会長へ副市長から説明させていただいた。本年秋には、原当麻から相模大野の区間で、現実的に一番可能性がある整備として何が可能か、また、原当麻方面から北里方面への多車線化の都市計画を本年の秋ぐらいには明らかにしたいと考えている。最終的な庁内調整が済んでいない内容だが、今日はお話をさせていただいた。可能なことから集中的に進めることを改めて市も取り組んで行くし、区民会議などには所管部局が来て、説明もさせてもらい意見をいただく機会も必要だと考えている。

(2) 南区の現状と課題のまとめと目指す姿について

●資料1『「V コミュニティ」の現状・課題と目指す姿』について説明

①分権型のまちづくり ②地域活動

◎コミュニティの現状と課題、目指す姿について、表現内容の確認及び追加事項や関連した補足事項等のご意見をいただきたい。

○安心・安全のまちづくりを目指すには、団体間のネットワークが構築されているとある、3月11日の大震災をきっかけに、一体感を持って、生活弱者が安心、安全に生活できる環境

を提供したいと思う。交通問題に戻るが、北里大学病院は救急医療の拠点となっているが交通渋滞のため機能できないことがあってはならないと感じた。

○南区の現状と課題にあるが、人と人との関わりは希薄なイメージがある。個人が日常生活で会話したり、つながりを持つことが大切だ。まちづくりの基本は、郷土を愛する気持ちが発点と思うが、郷土意識を高める交流が促進されるまちづくりでは、ベースとして「身近な地域での人と人が会話や交流でつながりがあるまち」のイメージも必要と思う。

○自治会の加入率の向上だが、今回は東日本大震災があり、加入率アップに関しては、契機となる。自治会加入のメリットについて、広報が不足気味に思える。コミュニティに関しては、大規模なマンションでは、自治会は、災害時重要な役割を果たすと思う。また子育てでは、病院に行くほどでもない悩みというのはかなりあると思うが、いつでも気軽に相談できるコミュニティの拠点が必要な気がする。実際、講座を南区で開催しようとしたとき会場がなく、町田市で実施した経過がある。

○自治会は地域と一体的なもので、市の政策、市との連携には欠かすことのできない団体だと思う。防災の取り組みでも、私の所属する自治会は2,000世帯で構成されているが、寝たきりの人など移動が難しい人が90余人おり、災害時にその人たちを避難させるには、寝たきりの方1人に、6人程度の人員が必要となる。そういった検討を繰り返し行っている。一方、自治会として活動のPRが不足しているとも感じている。新築マンションやアパートの自治会加入率が悪く、加入していても会費を一括納付している場合があり、中には自治会に加入していること自体認識していない方もいるため、防災訓練などを通じて、自治会の活動について、話し合いの場を持つようにしている。また、講演などの会場がないという話したが、私のところの自治会館は開放しており、講習会などの場の提供をしている。自治会は、様々な活動をしており、ぜひ加入してもらい、皆さんで地域をつくっていかうと思っている。

○自治会加入率の件だが、民間のマンションは80世帯程度でも全員加入するという例はあるが、市営や公団などの団地・マンションは、加入が進まない。入居の際、月150円の会費を徴収し、地域と交流し、助け合いの精神でふれあいの取り組みをお願いするという姿勢が市にあっていい。6月15日の広報の南区版には自治会活動の紹介が掲載されており、まちづくりセンターにも自治会に加入のメリットを記載したパンフレットが置いてある。大震災を自治会加入の契機として捉えて、行動をしている。

○自治会活動・加入については「楽しい」がキーワードだと思っている。母が自治会に入って、役員になり、「私はすごく楽しかった」と言っていた。みんな自治会というだけで引いてしまうようなイメージもあるので、イメージづくりも大切と考えている。

○私も自治会長だが、現在は弱者に重点を置いている。避難所委員の活動として、弱者の人を集めて話をする活動だが、この弱者支援を実施したところ自治会に残るといふ人も多くなっ

た。小まめな活動から徐々に広げていって、自治会に加入してもらおう状況だ。自治会活動のメリットは、話をする機会の提供くらいと思っていたが、強制的に月1回清掃の日を設定したところ、子供たちが一生懸命参加し、道路の清掃をしてくれたので道に草が生えているところはない。コミュニケーションの大切さを感じている。

○今年から、市の敬老会が各地区での開催になったが、個人情報保護の問題で、自治会に未加入の人も含めて地区住民の情報が自治会に入っていない。地区で敬老会を開くと、各団体に最終的に参加されない人の家庭訪問や、敬老記念品を渡すため自治会の手を借りることもあり、この機会を捉え、地区に住んでいるお年寄りの人数を把握するなど、いざというときの準備ができる良い機会だと捉え、自治会加入率も上げていけたらいいと思う。

○自治会活動に関して、旧態依然としたものでなく、高齢社会に対応した取り組みが必要と思う。安全面では、防災を中心とし、福祉活動、街路灯の管理などをしており、ごみの出し方の指導など自治会活動の必要性は高い。ただ、高齢者の方で持ち回りで役員になることが原因で退会したという話も聞くので、高齢社会に適応した自治会活動については一考を願いたい。個人情報については、守秘義務はあるが、ある程度の内容は提供した方が良く感じている。

○コミュニティについて、自治会だけが地域のコミュニティではなく、個々の人がもう少し積極的に取り組むべきと思う。一方自治会長の仕事は多過ぎる。自治会長に頼りすぎるきらいもある。皆団地に住むと隣人へは干渉しない、されたくないで生活してきた。コミュニケーションというのは、自分から出ていくべきで、自らが汗をかこうということが大切だ。高齢者と子どもの関係でも、高齢者から子どもへ声をかけなければならない。これはコミュニケーションの基本だ。また、道路拡幅では、総論で皆大賛成だが、一人一人の権利が強い中で、簡単には進まない。各論となると反対が多い。行政に任せっきりでなく、住民が先頭に立って、道路拡幅を議論する、みんなで頑張る、そういう意気込みがなければ、他人の財産を動かすことは難しく、こういったことが理解できていない。この区民会議でも、各人が一つの問題について、ボランティアで時間に関係なく熱意を持って話し合う姿勢が必要だ。

◎次に市民協働の拠点について意見をいただきたい。

●東日本震災は、自治会の有用性をアピールする機会と考え、4月から南区の7地区すべてで行政でも積極的に取り組む指示を出した。具体的には、区役所の1階の掲示と同様に、自治会の活動紹介、地域情報紙、加入パンフレットを配架した紹介コーナーを全地区のまちづくりセンターに設置し、転入、転居者用には、加入パンフレット等の配布を徹底している。また、ファミリー向けに、各地区でホームページを立ち上げて、地域での取り組みを紹介することもポイントと考えている。加入促進に向けては、各地区でターゲットを決めて重点的に取り組む。地域の皆さんと行政職員が一緒に取り組むことを目標にし、既に始めている。2

点目の拠点づくりだが、南区には中央区、緑区に比べて確固たる拠点が少ないことは大きな課題として捉えている。相模大野の再開発区域に、市民・大学交流センターが立ち上がる予定だが、そこには、市民活動の拠点の性格も持った場所をつくる方向で検討が進んでいる。活動場所が見つげづらいということだが、区内の公共施設や民間施設でも貸出可能なスペースがあれば、情報を提供していきたいと考えている。今洗い出し作業を行っており、今年の夏ごろまで整理し、ホームページに掲載する取り組みを進めている。その他福祉活動等の拠点については、引き続き課題と認識しており、区としても様々な場面で庁内調整を図っている。

◎市役所が全て用意して拠点をつくるのではなく、大学など、民の拠点を上手に使うために情報提供の仕組みがあれば良い。ハードをつくるのは、容易でないので、既存施設を活用する視点が大事だ。情報共有は役所の情報だけでなく、企業や市民の情報も共有することが大事であり、まちを好きになる、魅力があることもコミュニティの一つのベースになると思う。

○昨日新戸のたこ揚げ会場の草刈りをした。約1万㎡の敷地をボランティアでつくり上げ、草刈りを年3回やっている。今週、その会場で「はやぶさ」と絡めたたこ揚げをやり、映画会社が撮影に来る。メディアの影響力は大きいと思う。相模原市南区もどこへ行っても通るまつりを地域でやれたらいいと思うし、たこ揚げも地域の者しか、参加できていないが、区民会議の中で皆さんで議論いただき、もっと地域に愛されるまつり・まちにしたいと思っている。

○分権型のまちづくりの内容で、2つ記載してあるが、方向性が見えてこない、下の中段の分権型のまちづくり、個性豊かな地域づくりに対する取り組みの満足度が低いということなら、例えば満足度として区民主体のまちづくりが行われているなどの表現が必要だと思う。また、地域活動には、福祉に関する表現も必要だと思う。

◎南区の現状と課題のまとめについて、これまでの議論を再整理したものを、次回提示し、次に進めるため、事務局の考えを伺う。

●資料2「南区区民会議の区ビジョン検討のスケジュール」を説明。

次回、7月の区民会議では目指す姿の再検証のため、グループ討議を想定している。その後目指す姿を実現するために重点的に取り組む項目あるいは区のまちづくりの目標と基本方針などを検証していきたい。また、進捗状況としては、東日本大震災などの影響で2か月ほど当初の予定よりも遅れている。

(3) (仮称) 南区区民ミーティングで討論するテーマについて

●資料3「(仮称) 南区区民ミーティングで討論するテーマについて」を説明。

●(相模原青年会議所) テーマについて、忌憚のないご意見をいただきたい。テーマ1は取り

組みやすいテーマ、テーマ2は3・11以降の地域力に話題を持っていくことで、議論もしやすいと思っている。

◎テーマ案についてのご意見とミーティングの名称について、ご意見を伺う。

○テーマ2の自治会の取り組みについては、自治会に入らない若い人たちと一生懸命活動されている方との間にギャップ、理由があると思う。その理由や今後皆が加入し、活動してくれるような手法を考える必要があると思う。

○スケジュールだが、テーマごとに班を分け、1つのテーマを1日議論すると思っていたが、短時間でやるには、司会者、書記等の役割を設定しないとうまくまとまらないと思う。

○最初から理屈を出しすぎず、フリートーキングでも良いと考える。

○若い人たちなどがこの自治会をどう見ているか、そこからスタートして、なぜ入りたくないのか、入ればどういう影響が自分たちにあるのかを知りたい。

○テーマ2は、自治会を中心として考えるのか、NPOや地域の他のコミュニティも対象か。

●事務局は自治会を中心に考えたい。

○NPOは各団体、地域の団体と一緒に連携することを考えているが、やり方がよくわからないと言う。自治会とNPOのかけ橋についての討議は必要だと思う。また、両者の役割分担の議論も必要だ。

◎テーマ2については、地域のきずなを支え、自治会に対して、感じていることや考えていることをテーマにして、様々意見をいただく考えと承知するがよろしいか。

(テーマ2について了承する。併せて、ミーティング名称を事務局案のとおり承認)

◎区民会議としては、区ビジョンの答申を最優先だが、区選出議員との議論の場を考えたいと思っている。

○会議全般で、様々なご意見を聞くなか、南区には、どんな人が集まるのかという視点が不足していると改めて思った。まちは人がつくるもので、行政がつくるものではない。南区というのは、「こんな人たちが集うまちです」といった議論も欲しいということを提起したい。

4 閉会

次回(第11回)の日程を発表後、閉会した。

相模原市南区区民会議委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	有泉 健一	大野南地区まちづくり会議会長		出席
2	石川 龍二	相模原市観光マイスター		出席
3	石塚 俊之	伊勢丹相模原店総務部次長		出席
4	井田 尚美	公募委員		出席
5	出縄 大介	神奈川中央交通相模原営業所所長		出席
6	榎田 達雄	相模原市民文化財団常務理事		出席
7	追切 睦廣	麻溝地区まちづくり会議会長		出席
8	大久保 幸男	大野中地区まちづくり会議副会長		出席
9	大島 彰	相模原市民生委員児童委員協議会常任理事		出席
10	岡田 茂利	新磯地区まちづくり会議会長		出席
11	金子 匡甫	相模原市自治会連合会副会長	副会長	出席
12	小池 重憲	相模原青年会議所直前理事長		出席
13	小林 奈美	北里大学看護学部教授		欠席
14	坂本 堯則	相模台地区まちづくり会議会長		出席
15	佐藤 あつ子	相武台地区まちづくり会議会長		出席
16	鈴木 節子	NPO法人らいぶらいぶ代表理事		出席
17	高橋 孝子	NPO法人相模原こもれび副理事長		出席
18	田所 文男	相模原商工会議所1号議員		出席
19	中嶋 猛夫	女子美術大学芸術学部教授		欠席
20	畠山 博子	公募委員		出席
21	平塚 誠	公募委員		出席
22	松下 啓一	相模女子大学人間社会学部教授	会長	出席
23	丸塚 幾男	相模原南交通安全協会会長		出席
24	山下 義幸	東林地区まちづくり会議副会長		出席
25	吉川 友子	相模原市社会福祉法人経営者協議会副会長		出席

第10回相模原市南区区民会議 次第

平成23年6月20日（月）

午前10時から

南区合同庁舎3階講堂

1 開会

2 会議の公開について

3 議題

(1) 副会長の選出について …参考資料「相模原市南区区民会議規則」

(2) 南区の現状と課題のまとめと目指す姿について …資料1、資料2
「IV 道路・交通・都市基盤・土地利用（2）」から （第8回資料2）

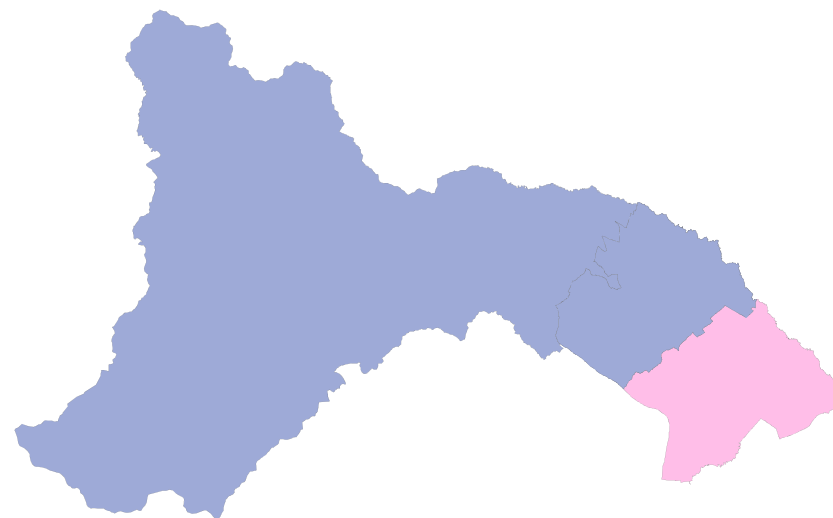
(3) （仮称）南区区民ミーティングで討論するテーマについて …資料3

(4) その他

4 閉会

南区の現状と課題のまとめと目指す姿について

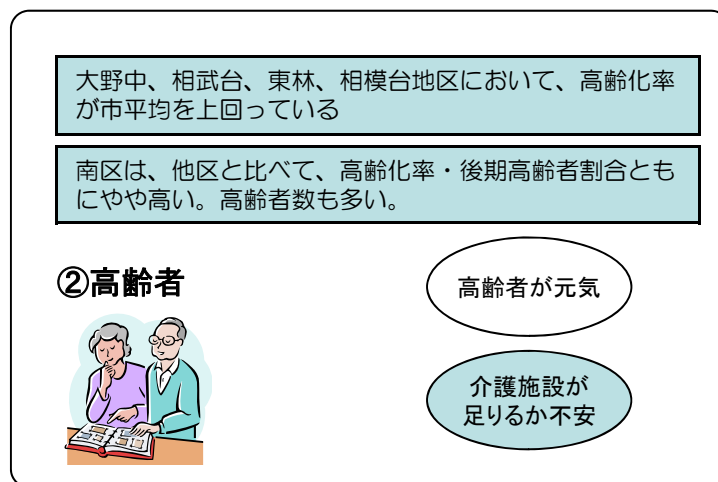
(第4回)



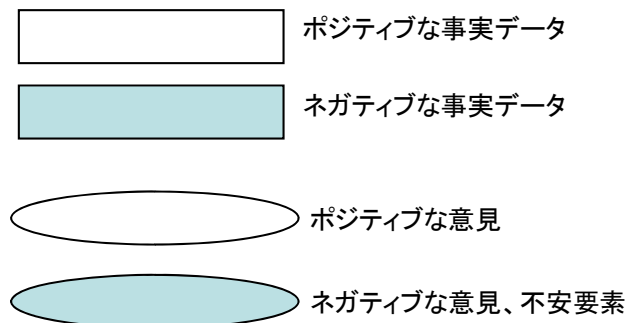
●新・総合計画基本目標との対応

新・総合計画基本目標との対応	現状・課題・目指す姿の構成	
◆基本目標Ⅰ 『誰もが安全でいきいきと暮らせる安心・福祉都市』	I-1	健康・いきがい・医療・福祉
	I-2	安全・安心
◆基本目標Ⅱ 『学びあい 人と地域をはぐくむ教育・文化都市』	Ⅱ	教育・文化
◆基本目標Ⅲ 『やすらぎと潤いがあふれる環境共生都市』	Ⅲ-1	自然・生活環境
	Ⅲ-2	産業振興
◆基本目標Ⅳ 『活力にあふれ多様な交流が生まれる広域交流拠点都市』	Ⅳ	道路・交通・都市基盤・土地利用
◆基本目標Ⅴ 『市民とともに創る自立分権都市』	V-1	コミュニティ
	V-2	その他

●「現状・課題と目指す姿」の図解の見方



図解のパーツの解説



「1-1 健康・いきがい・医療・福祉」の現状・課題と目指す姿

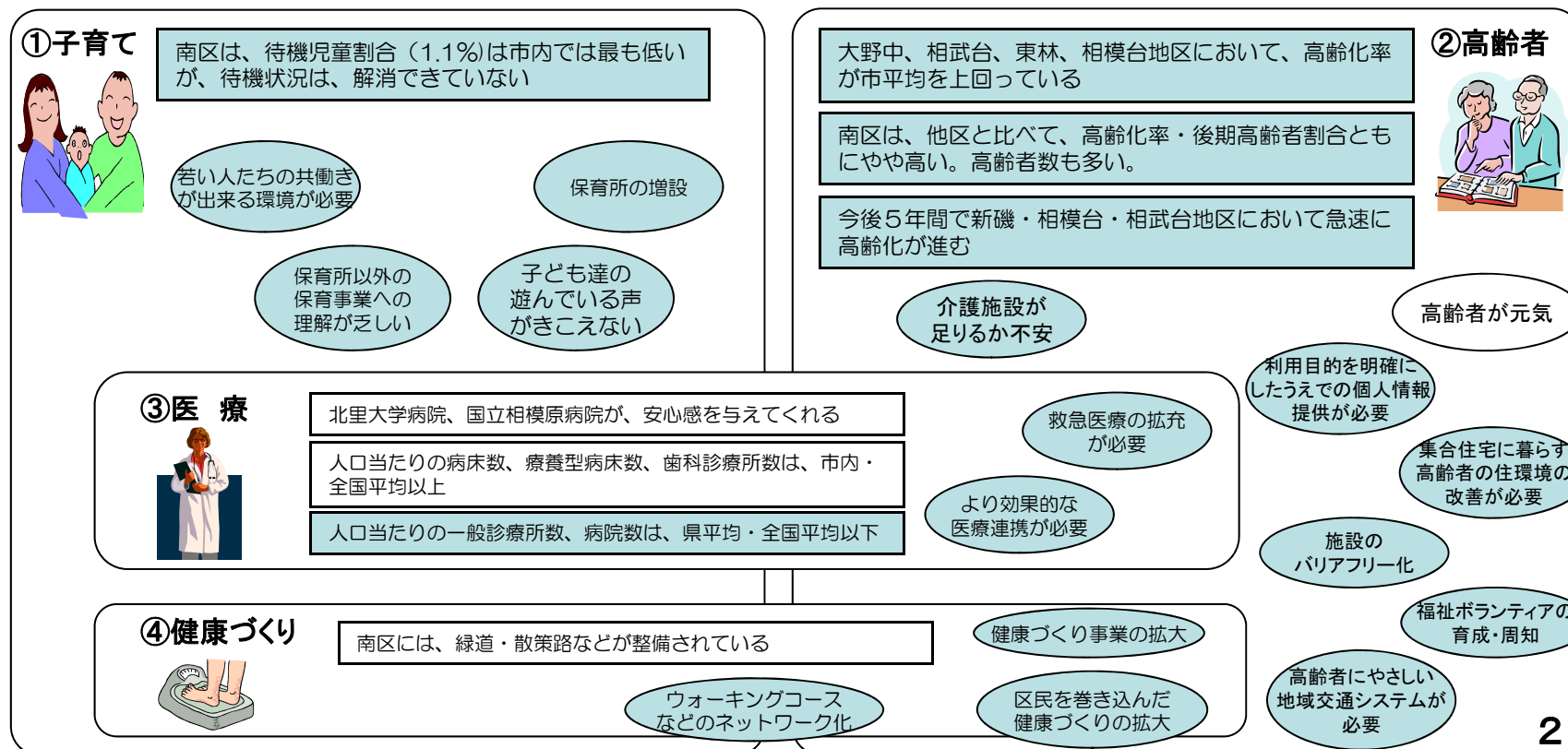
目指す姿

①子育て	②高齢者	③医療	④健康づくり
<ul style="list-style-type: none"> 子どもを必要ときに預けることができる。 子育てを支援するネットワークがつけられている 地域ぐるみで子育てを支援している 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が働いたり、地域活動に携わり、生きがいを持って、活躍している 生活支援が必要な高齢者に福祉サービスが行き届いている 地域で独居老人などを見守る仕組みがある ひとり暮らし高齢者や介護家族への支援がゆきとどいている 	<ul style="list-style-type: none"> 区民が安心して医療を受けることができる 医療機関が相互に連携し、様々な医療ニーズに対応できる体制がある 医療の仕組みを理解して、適切に利用している 	<ul style="list-style-type: none"> 区民が日ごろから心身ともに健康で生活している 運動グループや文化活動グループが活発に活動している 一人ひとりが自主的に健康づくりを行っている

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> 保育所や児童クラブの待機児童の解消に向けた環境の整備 地域で子育てを支援するため、地域や関係機関の連携や、家庭を支援するネットワークの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が生きがいを持って生活できるよう、就業機会や地域活動の推進 高齢者が出来る限り介護を必要とせず、地域で見守られ、支援する取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関相互の連携促進や、地域医療や救急医療体制の充実、情報提供の仕組みの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自主的にいける健康づくりに向けた取り組みの推進
--	---	---	---

現状と課題



「1-2 安全・安心」の現状・課題と目指す姿

目指す姿

⑤防犯・交通安全	⑥消費者保護	⑦基地周辺対策	⑧防災対策
<ul style="list-style-type: none"> ・南区内の犯罪、交通事故が減少している ・警察・関係団体との連携によって、十分な防犯体制、交通事故防止体制が整っている ・地域の目が行き届いていて、防犯力が高まっている。交通事故の多い地域では抑止のための取り組みがなされている ・犯罪防止、交通事故防止の意識が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者への啓発活動が徹底されている ・トラブルになった場合の消費者保護体制があり、それが周知されている ・トラブルに巻き込まれないよう、慎重に消費活動を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・基地があることによる日常生活での支障を感じられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民の防災意識を高める取り組みがなされている ・適切な避難場所・避難路が確保されている ・災害時の避難、救援体制が構築されている ・防災・減災のための備えができています

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・警察・関係団体・地域団体と連携を図り、防犯体制の充実や交通事故防止に向けた取り組み強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・年々悪質巧妙化する消費者被害から消費者を救済するため、区民の消費者としての自立支援と保護に向けた取り組みの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・基地に起因する問題解決に向けて、国及び米軍への要請 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民一人ひとりの防災意識を高めると共に、安全に非難するための避難場所・避難路の確保
--	--	--	--

現状と課題

⑤防犯・交通安全



南区の人口100人当りにおける交通事故死傷者数(0.42人)は市内では最も低い

安全安心ステーションを中心とした地域ぐるみの防犯活動が行われている

犯罪発生件数は減少傾向だが、車上狙い(321件)は増加傾向にある

ひったくり・暴行等の路上犯罪が多発していると感じる人(19%)が多い

ごみ屋敷問題対応の体制が整っていない

暗いところが多く、女性や若年者は不安

狭隘道路が多い

⑦基地周辺対策



基地周辺対策推進の取り組みに対して不満を持つ人(29.7%)が市内で最も多い

基地周辺対策推進の取り組みを重要と考える人(68.8%)が市内で最も多い

米軍用機などの基地の騒音

安心できる消費生活の実現に対する取り組みの満足度(21.2%)が、市内で最も低い

悪質商法が多発していると感じている人(4.9%)は市内で最も多い

犯罪の手口が巧妙化・複雑化している

新手の犯罪に対する情報提供が不足

⑥消費者保護



一万世帯当りの火災発生件数は市内で最も低い

治水対策推進に対する取り組みの満足度(15%)が市内で最も低い

消防活動困難区域率(10.9%)が市内で最も高い

防災対策に対する取り組みの満足度(18.9%)が市内で最も低い

災害時要支援者への対策が不十分

避難路が十分でない地域がある

⑧防災対策



広域避難所としてゴルフ場が2つある

「II 教育・文化」の現状・課題と目指す姿

目指す姿

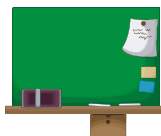
①教育環境	②生涯学習	③スポーツ振興	④文化・芸術振興
<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域において、子どもの教育のための施設や環境が整っている ・地域で子どもを見守ったり、様々な学びの機会を提供している 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を始めとして、学習機会や学習施設が整い、区民が活発に学習し、その成果を実践している ・生涯学習を通じてのネットワークづくりがおこなわれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーション活動のための施設が整い、区民が日常的に運動をしている ・地域内の親睦も兼ねた運動の機会をつくっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術施設や団体のネットワーク化と情報発信により区民が文化・芸術に親しむ機会が充実している。 ・地域の文化活動を楽しみながら継承している

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいいきと学校生活を送るため、施設や環境を整えると共に、地域資源を活用した指導内容の充実 ・地域での体験や活動を通じた学習機会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習機会の拡充や施設の充実を図ると共に、生涯学習を通じて交流できるネットワークづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーション活動の支援 ・地域に本拠地を置くチームとの交流・支援 ・施設利用率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・芸術施設や団体のネットワーク化と情報発信により、区民が文化・芸術に親しむ機会の充実
---	--	--	---

現状と課題

①教育環境



小中学校教育充実への取り組みの満足度(10.7%)は市内で最も低い

小中学校教育充実への取り組みを重要と考える人(52.9%)は市内で最も多い

地域資源を取り入れた体験学習

小中学校の施設の充実が必要

市民活動や生涯教育のための施設が少ない

生涯学習関連施設整備への取り組みに対する満足度(29.8%)は市内で最も低い

生涯学習関連機会の充実への取り組みに対する満足度(20.5%)は市内で最も低い

サークルや学習などで集まれる場所が不足

学校跡地が有効活用できていない

複合的な拠点施設がない

②生涯学習



③スポーツ振興

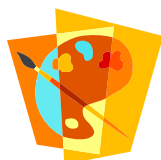


スポーツ・レクリエーション施設整備への取り組みに「満足」と回答した人(12.3%)は市内で最も多い

スポーツ・レクリエーション施設整備への取り組みを「重要」と回答した人(16.9%)は市内で最も少ない

相模原公園、麻溝公園、競技場の活用・推進

④文化・芸術振興



芸術・文化をはぐくむ環境づくりの取り組みへの満足度(42.8%)は市内では高い

芸術・文化をはぐくむ環境づくりの取り組みを重要と考える人(47.6%)は市内で最も多い

グリーンホール相模大野の入場者数が市内の文化施設で最も多い

勝坂遺跡公園の整備が必要

グリーンホール相模大野が文化芸術になっている

歴史資料等の収集・調査が不足している

相模の大風等伝統的文化、歴史資産が豊富

「Ⅲ-1 自然・生活環境」の現状・課題と目指す姿

目指す姿

①資源循環型社会	②自然環境	③生活環境
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの排出量が年々減少し、再資源化も盛んに行われ、環境への負荷の低い地域となっている ・適切なごみの分別がなされるように、地域でごみ出しの管理をしている ・ごみ減量、リサイクルの意識が高く、実践している 	<ul style="list-style-type: none"> ・水や緑が保全され、活用されている。また、多様な生物が生息している ・身近な川や里山などを地域で保全している ・自然保護の活動に積極的に参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄、ポイ捨てがなく、きれいなまちが保たれている ・自然環境やレクリエーションに配慮し、地域特性を生かした公園等が整備されている ・生活空間や身近な地域の清掃活動が行われている ・<u>地域特性(地区計画・地区まちづくり協定等を含む)を生かしたまちの景観や住みやすい環境がある。</u>

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル意識の啓発を図り、きれいなまちづくり、不法投棄防止対策のさらなる充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水やみどりの保全と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境やレクリエーション、歴史など地域の特性を生かした公園等の整備の推進
--	--	--

現状と課題

①資源循環型社会



リサイクルシステムの構築とごみの減量化・資源化の推進に対する取り組みへの満足度(50%)は市内で最も高い

リサイクルシステムの構築とごみの減量化・資源化の推進に対する取り組みが「重要」と回答した人(55%)は市内で最も多い

分別が徹底されていない

マイバッグ利用など、リサイクル意識が高まりつつある

②自然環境



みどりの保全と拠点づくりの推進に対する取り組みへの満足度(43.2%)は市内で最も高い

相模川や木もれびの森など、豊かな自然環境がある

自然環境が豊富に残っている

木もれびの森の活用や維持が不十分

都市と自然が近い距離で共存している

みどりをを守る団体・ボランティア活動の周知が不足

③生活環境



公園・民有地等の樹林の面積(168ha)が市内で最も広い

1人当り公園面積(11.2平方メートル)が緑区について広い

自然と人口のバランスが適度に保たれている

大きな公園がある

不法投棄対策が不十分

緑道緑地

道端のごみが目立つ

「Ⅲ-2 産業振興」の現状・課題と目指す姿

目指す姿

④商業サービス業の振興	⑤観光振興	⑥都市農業の振興
<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を中心として、個性と魅力ある商店街があって、他区・他市からも集客があり、賑わっている ・地元の商業施設、商店街を利用しており、コミュニティの場としても活用している ・新しい企業が進出、生まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントについて各地区の区民が知っていて相互に参加して楽しんでいる ・区内のイベントへ足を運びやすい手段や仕組みが出来ている ・区内のイベントが社会変化に合わせてリニューアルされている 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が農業に触れ合う場所が提供されている ・特徴のある農業、ブランド化された農産物がある ・安全・安心な地元食材を積極的に購入している

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の魅力向上 ・魅力ある商店街づくり、活性化への支援 ・業務系企業の誘致促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力や伝統あるイベントの磨き上げと南区間の回遊性の向上 ・魅力ある情報の効果的な発信、観光交流・地域経済の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民が農業に触れ合う場の創出と地産地消の推進
--	--	---

現状と課題

④商業サービス業の振興



小売業の店舗当りの年間商品販売額(17,229千円)が市内で最も多い

買回りの購入先として、南区の3割程度の人が町田を選んでいる

協同組合S I Aかながわの企業団地があり、相模大野駅西側地区市街地再開発事業、当麻地区整備促進事業、麻溝台・新磯野地区整備推進事業が予定されている

商店街の活性化が必要

集客力のある店舗が少ない

他の商業地域との差別化ができていない

買い物に便利

伊勢丹ブランドカ

⑤観光振興



過去2年間に区内のイベントに参加していない人が30.2%いる。

観光施設が1つしかない

魅力ある観光資源の整備と情報発信への取り組みに対する満足度(35.5%)が市内で最も低い

日本一の大仏、芝ざくらなど、伝統・魅力のある観光資源がある

区全体としてのイベントが少ない

観光拠点の機能が弱い

⑥都市農業の振興



経営耕地面積が市内で最も狭い

特色ある都市農業の推進への取り組みが「重要」と回答した人(29%)が市内で最も多い

農作物のブランド化が不足している

農地も比較的残っている

農家の後継者が不足

地産地消に対する取り組みが不十分

「Ⅳ 道路・交通・都市基盤・土地利用」の現状・課題と目指す姿（1）

目指す姿

① 中心市街地である相模大野駅周辺地区の魅力づくり

・相模大野駅周辺地区では、商業・業務機能が集積され、市内外から人が集う広域拠点として整備されている

・商業、アミューズメント、文化・交流施設など多彩な機能が充実した「楽しめる街」として発展している

② 麻溝台・新磯の地区及び当麻地区における新たな拠点の都市づくり

・さがみ縦貫道路インターチェンジ周辺における新たな拠点が形成されている。

・環境に配慮した上での道路や公共交通網の整備がなされている

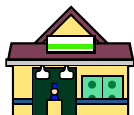
意見集約

・相模大野駅周辺地区を中心とした人・もの・情報が行き交う広域的な交流によるにぎわいのある都市づくりの推進

・さがみ縦貫道路インターチェンジの開設など、新たな都市づくりの形成が図られるため、環境に配慮しながら道路整備や公共交通網の整備など、利便性や活性化の実現

現状と課題

① 中心市街地である相模大野駅周辺地区の魅力づくり



にぎわいと遊び機能の創出に対する取り組みを重要と考える人（33.5%）が市内で最も少ない

相模原市内住んでみたい地区で、大野南地区（10.3%）が市内で第2位の人気

相模大野駅周辺の休日歩行者通行量（103,244人）が市内の他の商業地の中で最も多い

人のにぎわいが土日の駅周辺に限られている

学生多い

業務系企業が少ない

都心・横浜へ30～40分圏内

駅周辺を中心に都市機能が充実している

若者にとって魅力的な施設・スペースが少ない

② 麻溝台・新磯の地区及び当麻地区における新たな拠点の都市づくり



広域的幹線道路の整備に対する取り組みの満足度（22.9%）が市内で最も低い

さがみ縦貫道路インターチェンジ開設に伴うまちづくりの活性化

麻溝台・新磯野地域の土地利用計画、開発計画など事業化が遅れている

県道52号（相模原町田）の渋滞問題

インターチェンジへの交通アクセス向上に向けた整備への期待

「Ⅳ 道路・交通・都市基盤・土地利用」の現状・課題と目指す姿（2）

目指す姿

③交通環境	④公共交通
<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が整備され、安全で円滑な道路交通環境が形成されている ・車道・歩道・自転車道が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・南区の地域の拠点間を結ぶ公共交通網の充実が図られている ・交通不便地域が解消されている

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・県道52号をはじめ幹線道路の渋滞が激しく、その解消を図るべく、安全で快適な道路環境の形成 ・狭隘道路の拡幅工事など安全性や利便性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的で利便性の高いバス路線網を構築し、車から公共交通への移行の推進 ・公共交通の整備や利便性の向上
---	--

現状と課題

③交通環境



生活道路の整備に対する取り組みの満足度（13.6%）は市内で最も低く、重要度は70.2%と高い

広域的幹線道路の整備に対する取り組みの満足度（22.9%）が市内で最も低い（再掲）

H17交通センサスによると、市内で最も混雑の激しいのは、県道52号（相模原町田）である

交通の便良い

自動車に頼らないと移動がしにくい

道路が狭く緊急車両の通行に支障

交通不便地域への取り組みが必要

自転車利用環境が悪い

都心・横浜へのアクセス良い

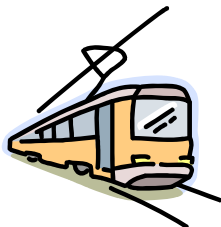
通学路の安全確保が出来ない

歩道が狭い歩行者に優しくない

道路の渋滞（国道16号線、県道51・52号など）

駅周辺の渋滞

④公共交通



利便性の高い公共交通網の整備に対する取り組みへの満足度（20.2%）が市内で最も低い

利便性の高い公共交通網の整備に対する取り組みが重要だと考える人（66.2%）が市内で最も多い

バスの路線が少ない地域がある

渋滞緩和のため鉄道・バス利用PRの必要性

新磯・麻溝地域への交通アクセスが悪い

コミュニティバスや乗り合いタクシーの検討など交通不便地域解消

駅や周辺部のバリアフリー化

「V コミュニティ」の現状・課題と目指す姿

目指す姿

①分権型のまちづくり	②地域活動
<ul style="list-style-type: none"> ・区民会議やまちづくり会議の意見を反映した区民主体のまちづくりが行われている ・区や地域の特性に応じた施策が展開されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会への加入率が向上し、その活動に人々が積極的に参加し、地域力の向上が図られている ・地域の担い手が育成され、地域課題の解決に取り組んでいる ・それぞれの団体が特徴を活かしながら協力・連携し、団体間のネットワークが構築されている

意見集約

<ul style="list-style-type: none"> ・区民会議や各地区のまちづくり会議の意見を活かした市民協働によるまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女、大学や企業など地域に関係するあらゆる団体や個人が、様々な活動に取り組むことができるような環境整備 ・地域のまちづくり活動を行う団体への支援や活動場所の充実 ・自治会活動の更なるPRと加入率の向上
--	---

現状と課題

①分権型のまちづくり



個性豊かな地域づくりに対する取り組みについての満足度(29.3%)が、市内で最も低い

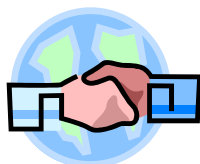
各地域の交流が少ない

活動団体のネットワークが弱い

市民として、区民としての一体感が希薄

地域分権の環境・担い手が育っていない

②地域活動



NPO団体の総数(62団体)が市内で最も多い

市民協働の拠点となる施設が少ない

郷土意識の醸成に対する取り組みへの満足度(11.7%)が市内で最も低い、また、重要と考える人(25.6%)も市内で最も少ない

自治会加入率(60.7%)が減少傾向にある

地域活動団体の拠点が不足

高齢化に伴うコミュニティ機能の強化

市民の意識が高い

住民自治意識の醸成が不可欠

世代間の交流が少ない

福祉に関する地域の担い手の不足

子育ての環境・支援の充実

新旧住民の意識の違い

年度	月	区民会議の開催	審議事項		
			区ビジョン	区の課題	その他
平成22年度	7	①区ビジョン諮問	市からの諮問	「南区内の課題認識・整理と解決に向けた検討」	「区の魅力づくり事業等についての協議、支援等」
	8		区の現状・特色及び課題		
	9	②ワークショップ			
	10	③全体討議	(ワークショップ)		
	11	④南区内視察			
	12	⑤南区の現状と課題の整理について	区の将来像		
	1	⑥ワークショップの集約、マークカラーの制定について			
	2	⑦区の現状と課題のまとめと目指す姿について			
	3	東日本大震災のため延期	区民意見収集・反映		
平成23年度	4	⑧区の現状と課題のまとめと目指す姿について、東日本大震災に対する取組み・課題について			
	5	⑨区の現状と課題のまとめと目指す姿について、南区区民ミーティングについて			
	6	⑩区の現状と課題のまとめと目指す姿について、南区区民ミーティングについて			
	7 ～ 11	⑪～ ・「目指す姿」再検証 ・重点的に取り組む項目 ・区のまちづくりの目標と基本方針		(区民ミーティング) 答申案のまとめ 最終答申案の作成	
	12			市への答申	
	1	区ビジョン答申			
	2				
	3				
平成24年度	4				
	5				
	6	区ビジョン策定報告			
	7	第1期任期満了(29日)			

(仮称) 南区区民ミーティングで討論するテーマについて

1 テーマ (案)

<p>テーマ 1</p>	<p>南区の魅力的なまちづくりとは ? ～ 私が南区を選んだ理由と魅力的なまち南区に必要なものは ～</p>
<p>内 容</p>	<p>○設定理由 南区には、大野南地区に代表される都市機能や麻溝・新磯地区に残る伝統文化、相模川やこもれびの森の自然など多彩な魅力を持つまちである。その一方では、市平均より高い高齢化の傾向、買い物先として他市への流出などの課題がある。これからの南区を、より魅力的なまちとするために必要ものを討議するテーマとした。また、初対面の参加者が打ち解け、討議しやすいテーマでもある。</p> <p>○情報提供 ・現状の統計データ ・再開発等まちづくりの取り組み ・南区の魅力づくりの取り組み</p> <p>○討議内容 ・まず、南区を選んだ理由（生まれてから居住している人は・南区自慢）を述べてもらう。次に、魅力的なまちとして、南区にとって大切なもの、育んでいくものなどを自由に討議してもらう。</p>
<p>テーマ 2</p>	<p>高まる地域コミュニティの役割！今必要とされる地域力とは ? ～地域のきずなを支える自治会をより魅力的なものとするには ～</p>
<p>内 容</p>	<p>○設定理由 東日本大震災を経験し、地域コミュニティがより重要になってきている一方で、少子高齢化・ライフスタイルの変化により、地域の主要な担い手である自治会の加入率が減少している現状がある。参加者には、自治会が果たしている役割を理解してもらい、自治会の加入促進などへのアイデアを討議するテーマとした。</p> <p>○情報提供 ・現状の統計データ（自治会加入率の状況等） ・今必要とされる地域力（高齢者の見守りや防災等の地域での取り組みなどの紹介）及びこのなかで自治会の果たす役割を説明 ・自治会の取り組み、自治会加入対策を説明する。</p> <p>○討議内容 ・地域の中心的な担い手である自治会について、無作為に選ばれて参加した人たちに、自治会の活動を理解してもらい、より魅力的な自治会像を議論してもらう。</p>

2 (仮称) 南区区民ミーティングの名称案

- ・ ~わいわいみんなで語ろう~ 南区区民ミーティング

< 参 考 >

■ 当日のスケジュール (案)

時間	内容
10:00	受付開始
10:30	集 合 あいさつ・趣旨説明・進行の説明
11:00	テーマ1 情報提供 (20分)
11:20	討議開始 (50分)
12:10	まとめと発表・投票 (30分)
12:40	(昼食と休憩・60分)
13:40	テーマ2 情報提供 (20分)
14:00	討議開始 (50分)
14:50	まとめと発表・投票 (30分)
15:20	アンケート、あいさつ
15:40	閉会